



今年は大型連休に日本の観光地を訪れ楽しんだという
 学生たちも多いようです。
 次の長い休みは夏休みではなく、
 しばらくは日本語の勉強に集中していただく、
 といったところでしょうか。

◆ オンラインにて臨時総会を開催

例年であれば3月末に開催する臨時総会ですが、今回は1か月遅れでの開催となりました。にもかかわらず、27の会員にご参加いただきました。

深堀 和子 会長（外語ビジネス専門学校）から「年度初めのお忙しい時期に出席いただいた皆様に感謝の意を伝えるとともに、今日は会員の皆さんと情報交換をしっかりと行っていい会にしましょう」というあいさつで総会はスタートしました。



深堀和子会長

全国専門学校日本語教育協会 臨時総会

日時 4月27日（木）15:00～17:00

方法 オンライン開催



- 【第1号議案】 令和3年度補正予算事業「ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業」による収入について
- 【第2号議案】 令和5年度 事業計画案に関する件
- 【第3号議案】 令和5年度 収支予算案に関する件

総会の議題は、いずれもご承認いただきました。ありがとうございました。



第1号議案は、会員の皆様にもご参加いただいた文化庁の「ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業」による収入についてご説明しました。第2号議案では、今年度の事業計画案についてご説明しました。「登録日本語教員」「認定日本語教育機関」に関する新しい法律に

どう対応していくかが大きい課題の一つです。恒例の日本語弁論大会は、第36回目を迎え大阪での開催となります。第3号議案では、来年度の予算案をご説明いたしました。日本語弁論大会と会員校紹介のホームページの作成についてはしっかりと予算を取って事業を進めることといたしました。総会で共有した資料（資料1）を添付いたします。ご質問などございましたら、いつでも事務局までお問い合わせください。

◆ 総会後の情報交換会で話題となったのは

「ネパールの入国問題」と「日本語教師の確保」

議題の終了後は、会員の皆様の声を共有するべく、情報交換会を実施しました。

総会前から「ネパール人留学生の入国が遅れている」「ネパールのNOC、VFSの問題について確認したい」という声が事務局に届いていました。総会で各校の状況を確認したところ、4月末時点でまだ入国できていないネパール人留学生が非常に多いことが判明しました。

ネパールでは、日本の在留資格認定証明書（COE）以外に、ネパール政府が発行するNo Objection Certificate（NOC）が必要で、その発行は代行業者であるVFSグローバル社（VFS）が行っているという他の国にはない事情があります。まずVFSで申請の予約をする必要があるのですが、1日に受け付ける留学希望者の人数が限られていて、9時に業務を開始すると1時間程度で予約の枠がすべて埋まってしまうとのことです。さらに、VFSの職員が必要以上に手数料を取っているという話もあります。外務省は「VFSを名乗って高額な手数料を取って手続きを代行する悪徳業者があることを大使館から注意喚起している」と説明していますが、事実ははっきりしない状況です。



岩本仁副会長

先日ネパール出張から戻った 岩本 仁副会長（福岡外語専門学校）の話では、当初は NOC が日本語学校に対しては発行されていなかったが、現在では発行されるようになった。しかし、発行までにかかなりの時間がかかってしまうことは事実で、福岡外語に入学予定の学生も5月中旬の入国になるのではないかとのことでした。

ネパールの状況については、アンケート調査で情報収集を行い、外務省に状況改善を訴えていきたいと思えます。詳しくは後述いたします。

「登録日本語教員」ならびに「認定日本語教育機関」に関する新しい法案が現在国会で審議されていることはご存じのことと思えますが、これに関連した懸念点として、今回クローズアップされたのが「日本語教師の確保が難しい」という問題でした。会員からは今後に向けて、教師不足を心配する声が増えました。

- ・今でも日本語教師の採用試験になかなか希望者が集まらない。
- ・多くの業務を担うせい、専任の教員が集まりにくい。
- ・新法のもとで登録日本語教員になるために資格試験が必要であれば、試験は受けずに現役を引退したいという声も聞く。
- ・非常勤講師が資格取得を目指してくれるのか大きい不安がある。
- ・教育の質を向上させるための法律なのに、教員資格のハードルを上げてしまって、教員数が減ってしまったら、今できていることもできなくなる。
- ・どうやったら学校として教員の資格取得をサポートできるのかよくわからない。
- ・せっかく経験を積んで成長した教員が、新規校に引き抜かれてしまうというケースも少なくない。
- ・認定に向けて、学校としてどこから手を付けていけばいいのかわからない。会員校の取り組みを共有するような機会を作してほしい。

新たな法律の下、質の維持、向上を目指して業界をリードしていくべき立場の私たちにとって、これは非常に悩ましい問題です。何とか皆さんと知恵を出し合って乗り越えていく必要があります。今後も情報収集と共有に努めたいと思えます。

そのような中、平岡 憲人 理事（清風情報工科学院）からは、新しい資格の創設ということで、清風情報工科学院の日本語教員養成講座の希望者が非常に好調で、日本語教師を目指している人が増えているのも事実ではないか、そして、優秀な修了生を自校の教員とすることも視野に入れて、思い切って養成講座を開設するという方策もあるのではないかと前向きな意見が出されました。



平岡憲人理事

◆ 「ネパールの実態把握」と「日本語教師の確保」 2つのアンケート調査を実施

総会での 木村 実季 監事（専門学校アジア・アフリカ語学院）からのご提案を受けて、ネパールからの留学生の実態を把握するためのアンケート調査を実施することにいたします。各校でネパールからの留学生に聞き取りを行い、その結果をアンケートに集約して、今後の要望活動につなげていきたいと思っております。



木村実季監事

<ネパールからの留学生の実態調査>

- ② 2023 年度 4 月期で COE を取得したネパールからの入学希望者数
- ② 入国時期と人数
- ③ COE 取得から NOC 発行、留学ビザ発行までのおおよその日数
- ④ NOC 発行のための手数料を誰にいくら支払ったか。

【アンケート URL】

（別途ご連絡）

さらに、全専日協としては日本語教師の確保は非常に大きい問題だと認識し、アンケート調査を通して、教員確保の現状を把握し、皆様のお知恵をお借りしながら教員確保の方策を探りたいと考えました。

<日本語教師の確保に向けた調査>

- ① 現在日本語教師が不足しているか
- ② 最近の教員採用の状況
- ③ 日本語教師を確保するために有効だと思われる取り組み

【アンケート URL】

（別途ご連絡）

二つの調査は、6月9日(金)を締め切りといたします。ご協力、どうぞよろしくお願いたします。

また、総会の情報交換会で取り上げられた以下の点について資料を共有いたします。添付資料をご確認ください。

・在籍管理優良校に代わる「適正校(クラスⅠ)、適正校(クラスⅡ)」(資料2)

【参考】https://www.moj.go.jp/isa/publications/materials/nyuukokukanri07_00024.html

・専門学校(職業実践専門課程)を卒業した留学生の就職について(資料3)

◆ 文化庁京都移転祝賀の集い

西村祐二郎監事

去る3月23日、京都市にて「文化庁移転祝賀の集い」が開催され、深堀和子会長の代理として西村祐二郎監事（京都コンピュータ学院）が出席いたしました。



西村先生の報告によると、新庁舎は京都府庁の敷地内にあった旧京都府警を改装したもので、古い建物も残しつつリニューアルしたとのことで、東京とオンラインでやり取りできる会議室や執務室が用意されているそうです。当日は岸田首相があいさつをしたこともあって、物々しい警備だったということでした。



今回は、臨時総会の模様を中心にお伝えしました。
アンケートへのご協力、よろしくお願いいたします。

2023年5月10日
全国専門学校日本語教育協会
ニュースレター担当